

「187万人の台所」

市では、毎年、皆さんの納めた貴重な税金がどのように使われているのを知っていただくため、予算・決算などを基に財政状況を公表しています。今回は、第3回定例市議会（9月21日～10月28日）で認定された平成15年度決算の概要を中心にお伝えします。

財政がわかる！ 予算・決算とは？

予算とは、1年間の収入（歳入）・支出（歳出）に関する見積りをまとめた「計画」のこと。一方、決算とは、実際の収支をまとめた「実績」に当たります。つまり、「予算」「決算」を見ると、市政運営に係るすべてのお金の流れが分かるのです！

市の会計は3種類

一般会計

福祉や教育、道路整備など、市政運営の基本となる会計

特別会計

国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別する必要がある特定事業の会計

企業会計

地下鉄や水道など、民間企業と同様、利用料金による収益を中心とする会計

平成15年度歳出決算

一般会計の歳出決算総額は、前年度比1.2%減の8,041億円。特別会計、企業会計を合わせた総額は、前年度比1.1%増の1兆5,124億円となっています。

今回は、決算総額約1兆5,100億円
 の具体的な内容をお知らせします。

※本文中の表は、各項目ごとに数値を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

歳入総額
8,109億円

前年度比1.3%減

市税

31.9%

市民税、固定資産税、都市計画税など
 2,584億円

景気低迷の影響による個人市民税の減、評価替えによる固定資産税の減などで前年度比3.7%減

国庫支出金

15.6%

国からの負担金・補助金・委託金
 1,262億円

生活保護費の増、児童扶養手当支給事務の移管（14年8月：北海道から）などにより前年度比9.3%増

地方交付税

14.3%

各自治体の財政力不足に応じて国から交付されるお金
 1,157億円

特別な市債（臨時財政対策債）の発行に振り替えられたため交付額が減少。前年度比7.3%減

諸収入

14.3%

他に含まれない収入
 1,162億円

地域新エネルギー導入補助収入の減などにより前年度比3.6%減

市債

11.3%

市の借入金
 919億円

普通建設事業に係る市債を大幅に抑制したものの、地方交付税からの振り替えにより臨時財政対策債が増加。前年度比2.3%減

その他

12.6%

使用料・手数料、道交付金、地方特例交付金など
 1,025億円

財政の課題はナンダイ!?

扶助費や公債費が年々増加

近年、生活保護費や医療助成費を含む「扶助費」のほか、借入金の返済に要する「公債費」などが増加。これらの義務的な経費の削減は難しく、このまま増え続けると、市が自由に使える経費が減っていきます。

毎年200～500億円の収入不足が

義務的な経費が増える一方で、市税や地方交付税などの大幅な伸びは見込めないため、中期的な見通しでは、16年度水準で仮定すると、17年度から20年度までに、毎年200～500億円の収入不足が予想されています。

財政構造の見直しが必要

このままだと、今後、本市の財政状況は一層厳しさを増す見込みです。将来にわたって本当に必要な行政サービスを安定的に提供していくため、歳入や歳出の抜本的な見直しが不可欠です。

平成15年度決算 一般会計

22.9%

保健福祉費

福祉、保健、医療などに係る経費
1,844億円

生活保護費の増、児童扶養手当支給事務の移管などにより前年度比8.7%増

歳出総額
8,041億円

前年度比1.2%減

土木費

道路や公園の整備などに係る経費
1,117億円

道路新設改良事業費、モエレ沼公園「ガラスのピラミッド」建設費などの減により前年度比11.6%減

13.9%

医療や福祉に係る「保健福祉費」が、全体の約2割を占めるのね。

この数字、金額が大きすぎて実感がわきません。

市民1人当たりには換算すると、市税の負担は139,691円、サービスを受けた額(歳出総額)は434,717円になります。

11.9%

公債費

市債の償還などのための経費
961億円

金利の低下により利払いは減ったものの、元金償還金の増により前年度比4.2%増

保健福祉費の伸びの主な要因は、その5割を占める生活保護費の増加にあります。市内の生活保護世帯は、この1年で約2,000世帯、7%も増えているのです。

歳入全体が減っているけど、その原因は？

景気低迷の影響から、歳入の中心となる市税が、平成9年度以降減り続けています。今後も大きな伸びは見込めず、歳入や歳出の抜本的な見直しが不可欠です。

経済費

産業の振興などに係る経費
802億円

コンベンションセンター建設費の減などにより前年度比11.5%減

10.0%

道路や公園の整備といった公共事業は減っているんだね。

国や地方の歳入が減る一方、道路や公園など社会資本の整備も進んだため、公共事業は縮小する傾向にあります。

4.8%

教育費

学校教育や生涯学習などのための経費
384億円

機構改革に伴う体育総務費などの他科目への予算の移管などにより前年度比3.5%減

その他

総務費、職員費など
2,933億円

※歳入との差し引き額69億円は、翌年度への繰り越しと、基金への積み立てに充てています。

36.5%

この数字だけ見ても、財政状況が良いのか悪いのかわからないけど。

一言で言うと、年々、財政状況が厳しさを増し、市が自由に使えるお金が減っているといえます。

財政がわかる2

市債入門

市債は、将来の市民にも経費を分担してもらう大切な仕組み

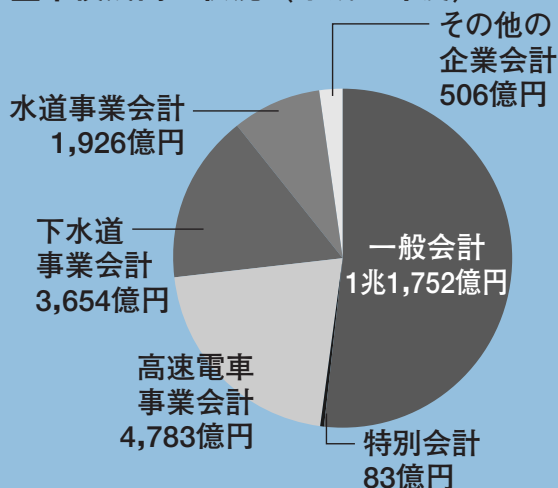
市債は道路や公園などの長い年月使用する施設を建設する場合などに限って発行しています。そのような施設の整備費用は、建設したときの市民だけがすべて負担するのではなく、「分割払い」にすることで、未来に利用する市民にも公平に負担してもらっています。

市債残高は2兆2,704億円。市民1人当たり123万円

平成15年度決算の市債残高は、一般会計、特別会計、企業会計を合わせると、2兆2,704億円。市民1人当たりには換算すると123万円となります。

将来に多大な負担を残さぬよう、新たな市債発行はできるだけ抑制するとともに、計画的に返済しています。

市債残高の状況(平成15年度)



企業会計

病院事業

■収益的収支の状況

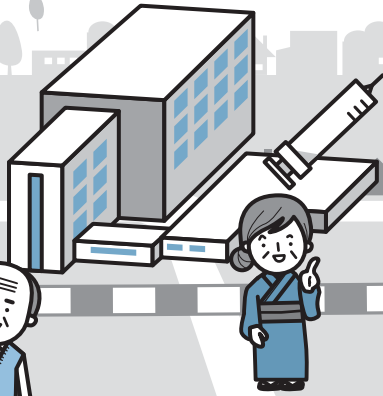
収入 208億5,715万円
 支出 218億8,323万円
 差引-10億2,608万円
 未処理欠損金
 138億656万円

■資金の状況

資金残18億9,530万円

<解説>

診療収益の増収と経費の節減に努めたものの10億2,608万円の赤字となりました。この赤字額は、平成7年に本院が現在の場所に移転して以来、最小に抑えることができました。



交通事業 (電車、バス)

■収益的収支の状況

収入 61億4,351万円
 支出 79億9,127万円
 差引-18億4,776万円
 未処理欠損金
 36億7,572万円
 (資本剰余金繰入後
 未処分利益剰余金
 1億1,792万円)

■資金の状況

資金不足11億3,609万円

<解説>

輸送人員の低迷が続く中で、費用の縮減に努めたものの収支は損失となりました。なお、バス事業では事業廃止に向けた規模縮小から収入・支出が減少しています。



下水道事業

■収益的収支の状況

収入 472億1,689万円
 支出 472億777万円
 差引 912万円
 未処理欠損金
 240億8,137万円

■資金の状況

資金残61億5,883万円

<解説>

下水道使用料収入が伸び悩む中、経営効率化による経費節減に努めた結果、単年度黒字となりましたが、未処理欠損金は240億8,137万円と、なお厳しい財政状況にあります。



高速電車事業 (地下鉄)

■収益的収支の状況

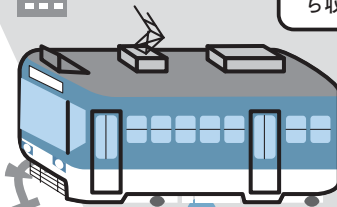
収入 482億9,303万円
 支出 578億7,916万円
 差引-95億8,613万円
 未処理欠損金
 3,331億1,447万円

■資金の状況

資金不足30億1,315万円

<解説>

人件費などの節減に努めた結果、前年度に引き続き営業損益で利益を計上しましたが、地下鉄建設に伴う企業債の利息負担が大きく、収益的収支では損失となりました。



特別会計

基金・一時借入金・財産

〔基金〕

特定の目的のために財産などを維持し、または定額資金を運用するためのもの。

現在高 2,264億円 (平成15年度末現在)

〈平成15年度決算で発生した決算剰余金の積立後の金額〉

財政調整基金157億円、減債基金1,074億円、土地開発基金704億円など

〔一時借入金〕

年度途中の一時的な資金不足を補うための借り入れ

現在高 25億円 (平成16年3月末現在)

一般会計0円、特別会計5億円、企業会計20億円

〔財産〕

(平成16年3月末現在)

■公有財産：土地4,044万5千㎡、建物549万9千㎡、有価証券49億円、出資による権利53億円など

■物品(価格100万円以上のもの)：4,171点(台)

■債権(市から民間への貸付金など)：130億円

平成15年度決算では、4つの特別会計で歳入不足が生じました。

国民健康保険会計

保険料収入の減少などによる不足

老人医療会計

国庫負担金などの一部が翌年度に交付されることによる不足

公共用地先行取得会計 砂防用地先行取得会計

市債を財源として土地を先行取得することによる年度中の財源不足

(単位：百万円)

区分	歳入	歳出	差引残額
土地区画整理	10,116	10,116	0
団地造成	181	181	0
駐車場	355	355	0
母子寡婦福祉資金貸付	312	226	87
国民健康保険	156,972	157,732	-760
老人医療	173,680	174,126	-446
介護保険	71,195	71,007	189
基金	1,009	755	253
公共用地先行取得	340	1,615	-1,274
砂防用地先行取得	839	844	-5
交通災害共済	305	133	172
公債	386,486	386,486	0

市の財政状況をより詳しく知りたい方のために
 〈ホームページ〉

「札幌市の財政」【<http://www.city.sapporo.jp/zaisei/kohyo/>】

「さっぽろ市税のホームページ」【<http://www.city.sapporo.jp/citytax/>】

16年度上半期 予算執行状況(平成16年9月末現在)

予算の執行状況などは、年2回の公表が義務付けられています。今年度も、適正な執行に努めていますのでご確認ください(単位:百万円)。

一般会計

収入・支出とも、おおむね15年度上半期並みの執行率です。予算は順調に執行されています。

区分	予算現額	収入済額	執行率(%)	
歳入	市税	258,800	134,833	52.1
	国庫支出金	137,692	46,599	33.8
	諸収入	123,458	11,012	8.9
	地方交付税	109,500	81,189	74.1
	市債	82,012	52,160	63.6
	その他	113,873	51,062	44.8
合計	825,335	376,857	45.7	

区分	予算現額	支出済額	執行率(%)	
歳出	保健福祉費	196,306	91,493	46.6
	諸支出金	130,823	42,533	32.5
	土木費	111,822	31,426	28.1
	職員費	106,400	47,135	44.3
	公債費	98,438	31,371	31.9
	その他	181,546	111,236	61.3
合計	825,335	355,193	43.0	

特別会計(主なもの)

収入済額、支出済額のいずれも、平成15年度上半期を上回っています。

区分	予算現額	歳入		歳出	
		収入済額	執行率(%)	支出済額	執行率(%)
国民健康保険会計	165,989	52,675	31.7	74,404	44.8
老人医療会計	178,345	72,618	40.7	74,980	42.0
介護保険会計	78,566	29,501	37.5	31,136	39.6

企業会計

〈収益的収支〉企業の経営活動に伴い発生する収支。
 〈資本的収支〉将来の経営活動に備えた建設改良などに係る収支。

区分	予算現額	執行済額		執行率(%)	
		収入	支出		
病院事業	収益的	収入	20,644	9,169	44.4
		支出	22,420	10,493	46.8
	資本的	収入	1,377	587	42.6
		支出	1,950	977	50.1
中央卸売市場事業	収益的	収入	2,179	842	38.6
		支出	3,677	774	21.0
	資本的	収入	3,363	0	0.0
		支出	4,858	1,880	38.7
軌道事業(電車)	収益的	収入	3,525	696	19.7
		支出	2,171	546	25.1
	資本的	収入	883	59	6.7
		支出	356	130	36.5
高速電車事業	収益的	収入	47,624	23,435	49.2
		支出	56,033	16,980	30.3
	資本的	収入	27,650	11,510	41.6
		支出	41,493	20,220	48.7
水道事業	収益的	収入	46,026	23,073	50.1
		支出	45,093	17,429	38.7
	資本的	収入	7,878	1,483	18.8
		支出	23,527	14,033	59.6
下水道事業	収益的	収入	46,881	23,363	49.8
		支出	47,453	14,469	30.5
	資本的	収入	27,784	6,597	23.7
		支出	44,802	29,657	66.2

中央卸売市場事業

■収益的収支の状況

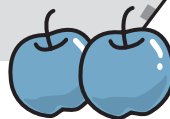
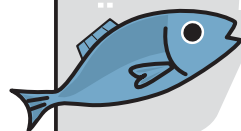
収入 19億6,984万円
 支出 23億6,052万円
 差引-3億9,068万円
 未処分利益剰余金
 24億7,106万円

■資金の状況

資金残60億9,152万円

<解説>

景気低迷の影響などにより、取扱額が前年度を下回り、使用料収入が大きく減少しました。一方、平成15年度は水産棟の工事が完了し、市場の再整備事業が着々と進行しています。



水道事業

■収益的収支の状況

収入 456億1,718万円
 支出 439億2,319万円
 差引 16億9,399万円
 未処分利益剰余金
 19億2,672万円

■資金の状況

資金残96億1,889万円

<解説>

長引く景気低迷の影響に加え、夏場の天候不順などにより、収入の大部分を占める給水収益が見込みを下回りましたが、経費の節減などに努めた結果、純利益を計上しました。



「財政構造改革プラン」策定へ

●依然として厳しい財政状況が続く中、16年2月に発表した中期財政見通しでは、市税や地方交付税などが16年度と同程度確保できた場合でも、17年度から20年度までに200~500億円程度の財源不足が発生する見込みです。

●こうした状況を踏まえ、18年度までに見込まれる収支不足265億円を解消し、持続可能な財政構造への転換を目指すための計画として、現在、「財政構造改革プラン」の策定を進めています。

17年度予算に対するご意見を



- 市では、現在、平成17年度の予算編成を進めています。今後は、1月中旬に、市長が各局からの予算要求を査定し、2月中旬に議会へ予算案を提出します。
- 17年度予算編成に対するご意見・要望などを、12月28日(火)まで、市コールセンター(1分)で受け付けています。寄せられたご意見・要望などは、予算査定の参考とさせていただきます。予算案への反映結果を査定結果と合わせて公表する予定です。
- なお、「予算編成方針」「各局予算要求方針」など関係資料は、財政部(市役所11階)、市政刊行物コーナー(市役所2階)、区役所、まちづくりセンター(出張所・連絡所)のほか、市ホームページでご覧いただけます。